

# 図書館報

Library Bulletin  
No.35

第35号



## ページ案内

巻頭言 『暗闇の中の一冊との出会い』  
校長 廣澤 秀伸 ..... P 2

【特集】 ユニークな本  
..... P 3

委員会活動報告  
ミニビブリオバトル大会等  
..... P 4

前橋地区図書委員会研修会等  
..... P 5

【特集2】 日本語に似ている外国語、統計  
..... P 6

## 巻頭言

## 暗闇の中の一冊との出会い

校長 廣澤 秀伸



高校生の時、将来何になりたいとか、どこかの大学に行きたいとか、聞かれるから何となく答えていたが、今から思えば全て勘で生きていたような気がする。特別したいことがあるわけでもなく、高校は三年間しかいさせてくれないから、とりあえず自分の居場所を確保するだけのために地元の大学に進学することにした。しかし、専門を決めないと受験できないから、勉強しないで一番楽に入れそうな学部を選んだ。親や先生に納得してもらうために、それらしい志望理由を作文したが、内心は家から通えて、三食保証され、おまけに教員免許が取得できるという程度の理由で、本当に将来教員になろうなんてまじめに考えたことは一度もなかった。

そんなことだから、勉強はしない、遅刻や早退は当たり前、何故か欠席はしなかったけれど、家にも退屈だから学校に行っている方がマシという程度の理由で休まないだけだったから、何回も先生からの注意で授業中に目が覚めた。そんな毎日だったから、前から数えて何番という成績で入学したはずだったのに、一年経ったら後ろから何番という成績になっていた。加えて高校から始めた音楽のレッスンもなんやかやと理由をつけてサボるようになり、高校二年の夏休みを境に同学年の仲間で作ったバンドにのめり込むようになった。中学の時、バンドを作った学校で練習していたら、音楽の先生からこういう音楽は学校ではやってはいけないと酷評されたことが悔しくて音楽の教師を目指したはずだったのに、想像以上にレッスンを厳しく、小さい頃からピアノを習っていた連中と比べられるとあまりに自分が情けなくて、そういう状況から一刻も早く逃げ出したかったのだ。だからバンドにのめり込むことが何にもならないことは他人から言われるまでもなく分かっていた。意味があるからやるんじゃない、でもここから抜け出せばそこに何かがあるはずだという自分の直感を信じてたくて、ひたすらエレキベースを掻き鳴らした。

しかし、文化祭本番では結局何も起こらず、最後のステージは実にあっけなく終わった。そしてバンドの仲間もそんなじゃこれから勉強でもすつかと、楽器をケースにしまっただ。自分はまっすぐ家に帰る気になれず町中をさまよい歩いたあげく、道すがらパチンコ屋の蛍の光を聞いていたら、何故か涙が溢れた。自分には明日からこれをするという理由を見つけられたものは何もなかった。数日後、退屈のぎに本屋に立ち寄ると、宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」が目に入った。宮沢賢治の短編はいくつも読んだが、この長編に触れたことはなかった。そこで手にした一冊の文庫本は昔読んだ「よだかの星」や「グスコブドリ」の伝記」の記憶を呼び覚まし、ジョバンニが銀河鉄道の道を通じて様々な人と出会い、『ほんとうのみんなのさいわい』の意味を知るまでの心の成長が描かれている。それまで賢治の作品は美化された自己犠牲としか思っていなかったが、改めて賢治の世界観に引き込まれる自分がいた。そうだ、こんな無力な自分にも唯一できることがあるとすれば、『ほんとうのみんなのさいわい』のために自分の身体を真っ赤に燃やして夜の闇を照らす蠟になろう。勘で選んだだけの教師の道だったが、これを一生の仕事にする理由が初めて見えた。それは前途を見失い彷徨う私にとって、暗闇に道を照らす一筋の光となったの言うまでもない。高校二年の秋のことであつた。



予選

ミニビブリア大会

決勝戦

チャンプ本決定!

# 活動報告

本は見た目が 100% !?

先生方全員分のポスターを廊下などに展示

館内にて本についてのコメント展示

い

あ

図書委員会の活動はカウンター当番や広報紙の作成だけでなく、さまざまな行事を企画し運営しています。その中から今年特に頑張った行事を報告します。

## 「ミニビブリアバトル大会」

六月十二日、十三日、十六日に本校図書館で実施しました。「ビブリアバトル」とは、一人ずつ本を紹介してもらい、その中から一番読みたいと思っただ本に投票してチャンプ本を決めるものです。通常は五分で行いますが、今回は人数が多いため、三分の「ミニ」になりました。結果は、『転生したらスライムだった件』（マイクログマガジン社）と『風の谷のナウシカ』（徳間書店）がチャンプ本に決定しました。どのグループも素晴らしい紹介でした。

## 「本は見た目が 100%?」

ブルゾンちえみさんが出演していたことも話題となったドラマ「人は見た目が 100%」にあやかり、今年から新たに始めた「本は見た目が 100%?」という活動。先生方に表紙だけで買った本を写真とともに紹介してもらう企画でした。

より生徒の皆さんに図書館を利用して本を読んでもらいたいという思いから始めたこの企画は、生徒からも先生方からも好評であり、大成功に終わりました。

前橋地区図書委員会研修会

ビブリオバトルと交流会に参加しました。

先生、ライトノベルというのほすね...

委員会

皆さん、テーマというのですね...

ハロウィン♪

読書週間イベント

1. 話す

2. 探す

POP 制作中

3. 作る

4. 飾る

一等賞

【前橋地区図書委員会研修会】

まさか前女に行ってビブリオバトルをすることになるとは思っていませんでした。ちょうど感動した本があったので紹介しようと思っていたのがビブリオバトルに出たきっかけでした。読んでほしい気持ちが伝わったのか、決勝戦まで進ませてもらい、緊張しましたがたくさんの人の前で話すことができてとても良い経験になりました。また機会があればビブリオバトルに参加して今度は県大会に出てみたいです。(参加者感想)

【読書週間】

読書週間で、より多くの人に図書館を利用してもらうため、様々な企画を用意しました。まず「ブック(で)トーク」では、先生方にもご協力いただき、先生と他学年の人とグループを組んで、お昼を食べながら気軽に意見交換をし、テーマ別展示の作成に挑戦しました。また、期間中図書館を利用した生徒にはスタンプカードを渡し、四つのスタンプがたまったらクリアファイルをプレゼントをした「スタンプラリー」も好評でした。

十月三十日はハロウィンなので、イングリッシュカフェも兼ねて、パーティーを企画しました。歌ったり、ゲームをしたり、仮装したりと楽しい放課後になりました。

